

市民が主役の市政を実現する会ニュース

- 発行：市民が主役の市政を実現する会 ●発行日：2023年12月20日
- 代表：桜井 美德 ●お問合せ：090-6473-3172(三田 登)
- ホームページ <https://yachiyo-syuyaku.net> QRコードからアクセス→



一日も早い医療センターの医師不足・休診問題の解決を!

八千代医療センターの医師・看護師不足に患者・市民に広がる負担と不安

「医療センターでは、近くでいい先生に受診できることをありがたいと思っていましたが、転院後は年寄りが電車を2回乗り換えて1時間以上かけて通院するようになり大変な負担になっています」(転院させられた患者さん)、「お医者さんと看護師さんが次々と変わって不安です」(治療中の患者さん)、「透析中に機械がピーと鳴

るとこれまではすぐ看護師さんが来てくれましたが今はだれも来てくれません」(透析患者さん)など八千代医療センターの医師・看護師の大量退職によるスタッフ不足が3年経っても一向に解決されないため、患者や市民に負担と不安が広がっています。

「市民が主役の会」は千葉県知事、八千代市長に改善を申し入れる

「市民が主役の市政を実現する会」は、新規患者受け入れ中止が5診療科から3診療科に減ったものの不十分な状況が続いており、医師・看護師不足問題を早期に解決することを求めています。

5月17日には1,782筆の請願署名を添えて服部八千代市長に申し入れ、7月28日に熊谷俊人千葉県知事に、さらに11月1日再度服部八千代市長に申し入れました。

申し入れに対し県は、「八千代医療センターは、域医療支援病院とか救命救急センターなど重要な

役割を担っている。」「市から要請があれば動きたい」(医療整備課片岡副課長)などと答えました。

服部八千代市長は「休診の科目があるのは好ましくない」「東京女子医大理事長とも話させていただく」「県が動くということであれば、連携がとれるように早速したい」と答えました。



2023年11月1日(市役所にて)再び服部友則八千代市長に申し入れ



2023年7月28日(県庁にて)熊谷俊人千葉県知事に申し入れ

市民の健康といのちを守るために「基本協定書」にもとづき早期解決を

3年経っても解決しない原因は、東京女子医大と八千代市双方が「建設及び運営等に関する基本協定書」を厳守する立場で協議しないからです。女子医大は「よくあること」という姿勢で、八千代市長は「お願いレベル」と腰の引けた態度です。

しかし、誘致した際に結んだ前出の「協定書」では、東京女子医大は22の診療科で質の高い医療サービスを市民に提供し、必要な医療スタ

ッフ配置と医療機器の整備をする義務を明記しています。一方、市は「協定書」にもとづき敷地の無償提供や107億円以上の助成を実施してきました。

市は市民の健康と命を守る立場で毅然と「協定書」厳守を主張すべきであり、女子医大はスタッフ大量退職の原因になっている理事長のワンマン・営利主義を改め、「協定書」の厳守に力を尽くすべきです。